

葛藤課題における4歳の子どもの生理的ストレス反応

親の養育態度からの検討

○風間みどり¹・平林秀美²・Tardif, Twila³ #・唐澤眞弓²

(¹東京女子大学大学院人間科学研究科・²東京女子大学・³University of Michigan)

【問題と目的】 子どもの葛藤場面における反応について、行動や感情表出に加えて、近年コルチゾールなどの生理的指標を用いた研究がなされ、Smeekens et al.(2007)は、親子関係が悪いほど5歳児のコルチゾール値が高いことを示している。ネガティブな経験時の生理的ストレス反応について、Lewis et al.(1993)は、日本の4ヶ月児はアメリカに比べて、コルチゾール値は高いが情動反応は小さいことを報告している。このことは、ネガティブな経験に対する生理的反応に文化的差異があることを示唆するものである。本研究では、葛藤課題における生理的ストレス反応について日本の4歳児を対象に分析し、さらに親の養育態度とその子どもの生理的ストレス反応の関連を検討することを目的とする。

【方法】 ◇研究協力者：東京都内の幼児とその母親 36 組（男児 22 名，女児 14 名，平均月齢=51.72, SD=4.76, レンジ 43-61） ◇研究時期：2010年3月～2011年1月

◇子どもへの実験課題：ネガティブな感情経験として3つの葛藤課題を連続した3日間にわたって実施した。単純で単調な作業を1人で行う動機課題（e.g., Olson et al.,1990），約束とは異なる最も好きではない物を，無表情な見知らぬ人からプレゼントとして受け取る対人課題（e.g., Cole,1986），コンピュータゲームに失敗する能力課題である。生理的指標であるコルチゾールは，課題実施30分前，直前（0分），10，20，30，40，50，60，75，90分後に採取した10本の唾液サンプルから収集した。コルチゾール値の分析は，分泌量全体に着目した曲線下面積（Area Under the Curve with respect to Ground：AUC_G）を用いた（e.g., Fekedulegn et al.,2007）。本研究では各課題の0-50分のAUC_G0-50を算出して分析した。

◇母親への質問紙調査：Socialization of Moral Affect –Parent of Preschoolers(SOMA：道徳的感情の社会化：幼児期の子どもをもつ親の養育態度；Rosenberg et al., 1997)を用い，母親の養育態度を測定した。ポジティブ・ネガティブ・他者の気持ちや子どもの行動に焦点をあてる・励ます・あいまいな態度の5つの養育態度得点（風間ほか，印刷中）を算出して，分析に用いた。

【結果と考察】 日本の子どもの生理的ストレス反応のパターンは，課題によって異なる傾向が見られた（図1）。3つの課題のAUC_G0-50について，被験者内一元配置分散分析を行ったところ，課題の効果は有意傾向であった（F(2,70)=2.53, p<0.87）。ボンフェローニ法による多重比較の分析により，動機課題に比べて能力課題のAUC_G0-50が大きいことが示された（p<0.05）。次に子どもの生理的ストレス反応と母親の養育態度との関連を検討するために，AUC_G0-50とSOMAの5つの養育態度との間の偏相関係数を算出した（表1）。日本の4歳児では，動機課題について，母親の他者の気持ちや子どもの行動に焦点をあてる養育態度が高いほど，子どものコルチゾール値が低くなり生理的ストレスが小さくなることが示された。同様の傾向は，能力課題でも見出された。また，動機課題については，母親のネガティブな養育態度が高いほど，子どものコルチゾール値が高くなり生理的ストレスが大きくなる傾向が示された。子どもの行動のどの点が悪いのか，他者がどんな気持ちになるのかを説明するしつけを親が行うほど，その子どもの能力的，動機的な葛藤場面における生理的ストレスが低減され，また親がネガティブなしつけを行うほど，その子どもは単調な作業による葛藤からの生理的ストレスを増大させる傾向を示している。これらの結果は，親の養育態度が子どもの生理的ストレスの増減と関連する可能性を示すものである。今後の研究では，子どもの生理的ストレス反応においても社会的文化的要因との関連を詳細に検討していく必要があると考えられる。

表1 日本の子どもの生理的ストレス反応と母親の養育態度との間の偏相関係数

| | ポジティブな養育態度 | ネガティブな養育態度 | 他者の気持ち・行動に焦点 | 励ます養育態度 | あいまいな養育態度 |
|----------------------------|------------|-------------------|--------------------|---------|-----------|
| 対人課題 AUC _G 0-50 | -.096 | .049 | -.081 | .032 | -.064 |
| 能力課題 AUC _G 0-50 | .286 | .255 | -.394 ⁺ | .165 | -.012 |
| 動機課題 AUC _G 0-50 | .245 | .369 ⁺ | -.438 [*] | .011 | -.216 |

注. 子どもの月齢，言語能力，母親の学歴，SOMAの他の4変数を統制 +p<.10, *p<.05

【付記】本研究は，「複雑系システムとしての感情制御」（科学研究費補助金基盤研究（B）20330139 研究代表者 平林秀美）及び，NSF HSD grant # SES 0527475（研究代表者 Tardif, Twila）の一部として行われた。

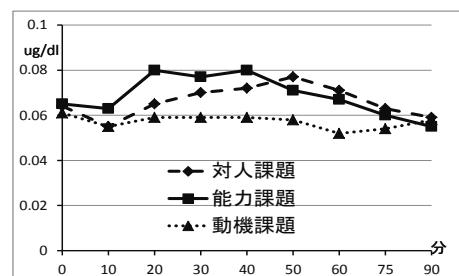


図1 日本の子どもの生理的ストレス反応